

I BOURGEOIS ET PROLÉTAIRES ¹

ブルジョアとプロレタリア

L'histoire de toute société jusqu'à nos jours ² est l'histoire de luttes de classes.

今日までのすべての社会の歴史は、階級どうしの間の闘いの歴史である。

de classes 階級間の、というのを階級闘争の歴史である、と意識してしまうと意味が違ってしまふ。

(註1)

Par bourgeoisie on entend la classe les capitalistes modernes qui possèdent les moyens sociaux (le production) et utilisent du travail salarié. Par prolétariat, la classe des ouvriers salariés modernes qui ne possèdent pas de moyens de production et en sont donc réduits à vendre leur force de travail pour pouvoir subsister. (Note *d'Engels*, édit. angl. de 1888).

ブルジョワジーという言葉でもって、以下のような階級を理解するものとする。以下のようなクラスというのは、社会的な手段を所有し給料を払った労働力を利用するそういう近代的な資本主義者たち、プロレタリアートというのは生産手段を持たない、従って自分が生き続けるために労働力を売ることを余儀なくされる、そういう者のことである。

現在の日本のサラリーマンは悪い意味はないですよ。給料が高くなるということはいいことだと、みんな思っていますよね。だけど実はマルクスの言え、給料をもらうということ自身が実は労働力と交換していることになるので、それは悪徳だと言う。これは重要な発想ですね。お金で買われるということは、要するに人間に対するものすごい侮蔑であるという。サラリエというのは、少なくともエンゲルスとマルクスにとっては労働の対価として買われていると。

支配と被支配というより、金で買われるという事自身が、マルクスに言わせると給料をもらっているということ自身が、屈辱だということです。それはあってはならない。労働の対価はなんで支払われるべきか、それはお金で支払われるべきでない、感謝の気持ちで支払われるべきだと。大きさに言えばそういうことです。人間の人間に対する人間的関係というのはマルクスの大好きな言葉ですけど、やはり人間の人間に対する人間的関係というのは、支配被支配というのはもちろんまずいのだけど、一番最悪なのはそれをカネで買うということ。

封建的な関係の方がむしろ、その支配被支配という点では同じだけど、いってみれば土地を与えられて土地を支配する権限をすべて委ねられているという意味では、諸大名たちも幕府の家来、御家人に過ぎないのだけど、それは金銭的な支配関係じゃない。だからマルクスは対等性を求めてない。人間の最も重要は高貴な労働が、金を対価として全て解消されてしまうと。不平等が不正義だという言い方をマルクスは一回もしていないと思います。キリストも言っていないと思います。キリストはむしろ金持ちが天国に入るのは象が針の穴を通るより難しい、そういうふうになんか金持ちを脅かした。

ここではブルジョワジーとプロレタリアをこのように定義をすると、エンゲルスが88年に補足した。ブルジョワジーという言葉自身がもう今社会主義者の世界でしか使われないのではないですかね。

(註2)

On plus exactement l'histoire transmise par les textes. En 1847, la préhistoire, l'organisation sociale qui a précédé, toute l'histoire écrite, était à peu près inconnue.

より正確に言えば、歴史は文章によって書かれたものとして残っているものである。47年において、前史すなわちそれに先立つ社会組織、別の言葉で言えば、書かれた一切の歴史というがほとんど知られてなかった。

歴史と言うと過去の出来事というふうに気楽に撮るかもしれないけどそうではない。1840年代の段階で言えばいわゆる近代史が書かれる前のことはほとんど知られてなかったって言うんですよ。「すべての歴史は階級闘争の歴史である」、と言ったけど、どういう歴史に基づいて言っているのかと。歴史という以上は、こういうふうなことがあってその時にこういう事件があって、それがどういう風な顛末を経てとか、そういうふうな話が展開されるべきじゃないですか。歴史書に階級闘争の歴史をきちんと書いたものがまだない、それは俺たちが書くのだと。

Depuis, Haxthausen a découvert en Russie la propriété commune de la terre. Maurer a démontré qu'elle est la base sociale d'où sortent historiquement toutes les tribus allemandes et on a découvert, peu à peu, que la commune rurale, avec possession collective de la terre, a été la forme primitive de la société depuis les Indes jusqu'à l'Irlande.

ハクストハウゼンは、ロシアにおいて土地を共有財産として管理するという文化をロシアの中にあるということを見つけた。マウラーは、土地共有性が、一切のドイツ民族が歴史的にそこから出発したところの社会的基盤である、ということを実証した。それはインドからアイランドまで、農村共同体が原始形態をなすに至ったということが次第にわかってきた。

ドイツ民族でなくてチュートン民族という言い方、古典的なゲルマン民族でない、ゲルマン民族によって滅ぼされた人たち、もありうる。だから僕は同一地方のすべての部族と訳したらいいと思う。ドイツ人という意味ではないです。チュートン民族と訳すのも正しいかもしれない。そういう意味で大きく見れば、階級闘争の歴史という言い方はマルクスやエンゲルスが見抜いたことであって、闘争の歴史であるという言い方は昔からなされていたわけです。戦争史というのはもう古代ギリシャのペロポネソス戦争とかアレキサンダー大王の跡目争いの大戦争とか、大帝国有った後は大体大戦争があるわけで、とにかく遺産相続をめぐる争いというのは人類の歴史の中でもっと醜いものだと思うんですけど、それがずっと続いてきたわけです。普通は官僚がきちっといて大王の死後も体制を擁護すべく体制を整えるのだけれども、よくできた官僚体制も永遠ではないわけです。江戸時代になってわずか300年で終わりになる。江戸時代が長く続いたのは何と言っても江戸幕府の官僚制度の出来の良さによるところがあるんじゃないですか。今なかなかいないですよ。信じられないくらい良くできていますよ、よくできていた。

Finale­ment la structure de cette société communiste primitive a été mise à nu dans ce qu'elle a de typique par la découverte décisive de Morgan qui a fait connaître la nature véritable de la gens et de sa place dans la tribu.

遂に、原始共産主義社会の構造は、モルガンによる決定的な発見、gens ジャンの本質と tribu (部族) における gens ジャンの地位を知らしめたことによって、典型的であったということが明らかになった。

近年書かれた歴史の中で、もともと原始共産主義的なものがあまねく存在していた、ということ。そして実はそれは極めて典型的なことであった。少なくとも歴史に関して、すべての歴史は階級闘争の歴史であるとマニフェストとしては言えても、きちっとした歴史学にはなっていないということ、エンゲルスは分かっているというのが大事なんじゃないでしょうか。

Avec la dissolution de ces communautés primitives commence la division de la société en classes distinctes, et finalement opposées. J'ai tenté de décrire ce processus de dissolution dans L'Origine de la famille, de la propriété privée et de l'État, 2e édition, Stuttgart 1886. (Note d'Engels, édit. angl. et all. de 1890, 1888.)

原始共産主義社会が解体され、そのことによって社会は様々な階級へと分断され、そして最終的には対立する階級への分裂が始まる。私は、「家族、それから私有財産及び国家の起源」(第2版シュトゥットガルト、1886年)において、原始共産主義の解体過程を書くことを試みた。

有名なエンゲルスの本ですよ。これすごく共産主義っぽい。家族の起源は、普通は愛だという人がいますよね。クリスチャンの人たちはだいたいそういうふうにあります。夫婦の愛、これほど素晴らしいものはない、そういうふうには賛美していますよね。それはキリスト教の思想で、エンゲルスに言わせれば家族の起源というのは私有財産の起源と一緒になんだと。私有財産がなかったならば国家もないし家族もないのだと。実際原始共産主義の中ではお父さんたちお母さんたちと複数形でしか呼ばない。そういう部族が未だにいるみたいですね。要するに多夫多妻だから。